



図書室から Book
Guide
No.258

オリバーくん

R・クラウス：文
J・アルエゴ/A・デュウェイ：絵
はせがわ しろう：訳

ほるお出版
1500円＋税

「オリバーくん」のオリバーくんのお得意は「うさぎ」何にだってなれちゃうから。パパもママも、そんなオリバーくんの才能を伸ばそうと、あれこれ仕掛けます。道具を買い与えたり、お稽古を勧めたり。ああ、なんだか耳が痛いですが、オリバーくんは何でも上手にならして、パパやママを喜ばせてくれました。こどもの才能に期待する親と、親の期待に応えようとする頑張るこども、の絵本なの？さて、どうでしょうね。オリバーくんの表情がとてもかわいらしくて、笑っちゃう絵本です。

なが い

飲食禁止 編集後記 90

◆このコロナ禍でセンターでは飲食禁止をお願いしている。ある日のこと、小学2年生の子が、「中学生になったら、ここでアイスクリーム食べられるの？」と聞いてきた。「今はコロナだからダメにしているよ」と言うと、「卓球の部屋で食べていたよ」と・・・知らせてくれたのかと見に行くと、中学生たちは何食わぬ顔をして卓球をしている。「君たち、ここでアイスクリーム食べた?」「喰ってねーよ!」とでかい声。「今、小さな子が知らせてくれたんだけど」「知らねーよ!」「そうか。コロナが終わるまでは、飲食禁止になっているから協力してね」「だから、喰ってねーと言ってんじゃん」「君たちが食べたも言ってないよ。『協力して』とお願いしているだけだよ。」

◆彼らが帰った後、消毒をしに行くと、卓球台の傍にある椅子の下からサーティーワンの袋と食べかすが出てきた。あれだけ食べてないと言い張ったのだから、せめて証拠が残らないようにゴミは持ち帰ればいいのにと思いながら片付ける。中学生にもなって何と稚拙な行動だろう。

◆感染原因は飛沫の拡散が危険であると言われていて。センターでは、ウイルスを滞留させないように換気に気を付け、飛沫を飛び散らさないように「室内ではマスク着用」と、「全域での飲食禁止」をお願いしている。換気はスタッフが気をつ

ければ何とかなる。マスク着用は、気が付くたびに注意すれば面倒だという顔をしながら子どもたちは着用するのでこれも何とかなっている。ただ、スタッフの目を盗んでの飲食はどうともしがたい。ペットボトルを飲みまわしていないか。食べ物をシェアしていないか。大きな声で話しながら食べていないか。各部屋にスタッフが張り付いているわけではなく目が届かないため、おやつを食べたい気持ちは理解しつつも少しの我慢をお願いしている。

◆大人たちだって気が緩み、「この程度だったら大丈夫だろう」と飲み会だ、会食だとやっているのだから、子どもたちだって「みんなでおやつを食べたい」という気持ちはあろう。だが、緊急事態宣言の時のように、感染予防による「閉館」という措置に陥らないようにと、センターはできるだけの努力をしているのだ。もし閉館になれば、一番困るのは子どもたちだろうと思えばこそ、協力をお願いせざるを得ない。ましてや職員が感染源であってはならないと、私生活でも会食等を自粛し、できるだけ外出を控え、出勤前には必ず検温を実施している。誰でも罹る可能性は含みながらも最大限の努力は怠っていない。

◆第三波が到来している。気持ちを再度引き締め、ぜひ、子どもたちも自分たちのことだとの自覚を持ち、少しの我慢で遊ぶ楽しさを継続できる努力を協力してもらいたいものだ。 統括館長：針山直幸



NPO あかい屋根広報紙
発行：特定非営利活動法人 あかい屋根 ひまわり編集部
044-976-0444

ひまわり

第 532 号
2020/12/ 1

回覧 を再開します



これから よろしくお祈りします



市から7月31日に、町内会・自治会を通じての回覧を11月いっぱいまで「自粛」するようにとの通達がありました。このコロナ禍にあって、本紙「ひまわり」も協力することとしました。

7月31日の連絡で、8月号は既に発行済みだったため、このことを皆様にお知らせするすべもなく、発行は続けていたものの限られた配架場所であったため、皆様の目にはとまらなかったことと思います。

ようやく、12月の声を聞くことができ、回覧

を再開いたしますので、どうぞ皆様のご協力をお願いいたします。

第三波到来、Go to の見直し等と世間はまだまだ落ち着きを取り戻したと言いつつも難しい状況ではございますが、情報をお届けするのも私たちの務めと考え、不安を抱えながらも再開する次第です。これからも、皆様と力を合わせて子どもたちに関わる情報をお届けし、共に考えていけますように奮闘してまいりたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。



菅生こども文化センター

やれば できた! コロナ禍の中でも

ハンバーガー&フライドポテトづくり



調理：ディスタンス・マスク着用・器具は個別で



11月21日(土)、昼食を兼ねてのハンバーガー&フライドポテトづくり。コロナ禍ということで細心の注意をはらって実施。調理はディスタンスを守り、マスク着用、手洗いの徹底。器具も一人ずつ用意し、パテを練るのも個々のビニールの中。

食べるときもディスタンスを守り、無言で。大人の外食姿よりも、子どもたちは約束をしっかり守り、食べることができました。食べ終わってマスクを着け感想を聞いてみると、「有名バーガー店よりおいしかった」との声も・・・やればできた!



試食：マスクを外している間は無言で

こども文化センターは 地域の宝⑤

学び続ける母親たち

こども文化センター建設運動の中、「子どもたちにとって最適な施設は何か」を学習し続けてきた母親たちは、いかに学びが必要不可欠なものかを体得していました。そして、センター建設後も、センターを集いの場として活用し、学習することは終わることはありませんでした。子どもたちは、大人たちのあまりにももの多さに「ここはこども文化センターでなく大人文化センターじゃないの？」と揶揄する言葉を職員にいうほどでした。当時の市内こども文化センターの多くは、幼児クラブもなく、大人たちの利用もなく、菅生だけが開館時からフル回転という状態だったのです。

母親たちのグループはアメンバーのごとく

読書クラブから、お話を中心とするグループが派生、人形劇グループへとさらに派生し、静かに読書を楽しみたい人たちは「古典」を読み源氏物語を制覇しました。幼児クラブは毎年終了時になると、別れるのが惜しいと、そして子どもたちのために、環境問題等を考えるグループ、布の絵本に取り組むグループ、職員と一緒に子どもたちに創作活動を指導するグループ、ハンドベルの音色を奏でるグループ、ダンスを練習して果てはミュージカルを演じるまで技量を高めて子どもたちに教えるグループ、などなど様々なグループが結成されました。グループの中で活動していた母親たちは、人の中心になることは何でもないという自信を持ち、PTA活動などにも積極的に取り組んでいました。菅生の母親たちは、ほどよい責任感と充実感を味わいながら生き生きと過ごしていたのです。

愚痴

母親たちがセンターにやってきてよく苦にするのが、連れ合いに対する愚痴でした。「うちの旦那

ときたら、誰のおかげで飯を食っているんだというのよ。だから誰のおかげで働くことができているんだと言い返してやったのよ。」「うちの亭主も平気で言うのよ。私は誰のおかげでご飯を作ってもらえて清潔なものが着られているのと言ってやったわ。」「私たちが家を守っているからなのに。」と・・・1970年代後半に台頭してきた「女性の生き方」が、菅生の中でも課題でした。

女性の自立

そのころ、マスメディアに引っ張りだこだった著名人が菅生にやってきて講演会が開かれました。



写真左「樋口恵子氏」、写真右「吉竹輝子氏」のお二人は「女性の生き方」として、女性は男性の従属物ではないと提唱している方たちでした。当時の流行語「濡れ落ち葉」という言葉を生み出した人たちでもあります。「きれいにしようとして掃除をしても、濡れ落ち葉ははがれることなく、はいてもはいてもべったりと張り付いて離れない。女性たちが自立しようと懸命に立ち上がろうとしても、濡れ落ち葉のごとくまとわりついているのは男性たちだ。」と女性たちが変わることを邪魔しているのは男性たち。だから、女性が思うように生きていくためには、男性たちの考えを変えない限り難しいとの講演内容でした。聴講者一同立ち上がったの拍手が湧きあがりました。

どうして、こんな有名人が菅生に来てくれたのかは、いまだにわかりません。きっとお願いした方が熱意をもってお話しされたのではないかと推察します。

12月のおしらせ

新型コロナの感染状況で、変更・中止もあります

菅生こども文化センター

☎976-0444

2・9・16・23日(水) 14:30~16:30

- あそべば 誰でも 無料
- 2日 ディスクゴルフ大会
- 9日 ミニチュアクリスマス工作
- 16日 天下大会
- 23日 あそべばのXmas
~人形劇がやってくる~

5日(土) 16:30~19:00

- 星をみる会 誰でも 無料
要申込 〆切 11/30

11日(金) 15:00~16:30

- アイスクリームの天ぷら&松ぼっくりケーキ
小学3~6年 200円 要申込 〆切8日

18日(金) 10:45~11:30

- がらがらんど クリスマス遊び
誰でも 無料

26日(土) 10:00~15:00

- ONE ぱーく もういくつ寝ると~お正月遊び~
3~6年 25名 100円 要申込 〆切 21日

- ※12月の工作 パタパタ
誰でも 無料 やりたい
ときにスタッフに声をか
けてください。



蔵敷こども文化センター

☎977-2577

2・9・16・23日(水) 14:30~16:30

- ぞうさんのポケット 誰でも 無料
- 2日 クッキーオーナメントを作ろう
- 9日 忍者クラブ
- 16日 借り物競争 Xmasバージョン
- 23日 サンタと遊ぼう

20日(日) 10:00~15:00

- きよちゃんの染物教室~巾着づくり~
小学生10名 300円 要申込 〆切 15日

25日(金) 10:30~11:30

- よちよちこ クリスマス会
未就学児とその保護者 無料

12月の工作 オリジナルリース

誰でも 無料 やりたいときにスタッフに声をかけてください。



月の工作大好評!!



ひまわりの
ブローチ
づくり
(8月)

コロナ禍の中、センターでの運動も禁止されていた7・8月。密にならずに何か子どもたちが集中して楽しむことができるもの、センターに来て良かったと思える取り組みで「やりたい人はいつでもスタッフに声をかけてね」と月間でテーマを決めての工作は大好評。運動が解禁になっても続けています。今では、この月間工作を目的にセンターを訪れる子どもたちも現れ、楽しみの一つとなったようです。

菅生・蔵敷どちらのセンターも創意工夫をして展開しています。それぞれメニューが違うので、そのうち工作をやり、センターを、毎月ハシゴをして楽しんでいるという子どもたちが現れないかな・・・とスタッフも楽しみにしています。